

第3学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名

指導者 渡 邊 健 二

1 題 材 ドレミで歌おう

教材 「ドレミあそび」

「ドレミで歌おう」

小原光一 作詞 作曲者不明

「海風きって」

高木あきこ 作詞 石桁冬樹 作曲（本時主教材）

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第2学年題材「ドレミであそぼうⅠ」において、体を動かしながら階名唱をしたり、鍵盤楽器で演奏したりする活動を通して、階名と音の高さとの関わりを感じながら演奏する楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、様々な曲を階名唱したり、楽器で演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、旋律に着目して、五線譜上の音符の位置と音高を結び付けながら階名唱で表現したり、ドからソの五音で簡単なふしづくりをしたりする活動を通して、ハ長調の楽譜を視唱・視奏することに関心をもち、表したいイメージと音高を関連付けてどのように表現するか思いや意図をもつとともに、曲想と旋律の表れ方との関わりに気付く能力やハ長調の楽譜を見て階名視唱したり音高を感じ取って表現したりする能力を高めることをねらいとして、本題材「ドレミで歌おう」を設定した。

ここでの学習は、リズムや旋律の感じを生かして表現を工夫する能力を育てる第3学年題材「ふしの感じを生かしてⅠ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

ハ長調の楽譜を見て階名視唱したり音高を感じ取って表現したりする能力を高めるためには、リズムや音程に気を付けて聴唱を繰り返すことで階名唱に慣れ親しませた後に、ハ長調の楽譜を見ながら視唱する活動に移行したり、体を使って五線譜の音符と音高との結びつきを感じ取らせたりすることが効果的である。特に、この期の子どもたちには、拡大五線譜の上に立ち、音高に合わせて体を移動させる活動を通して、楽しみながら音高感を身に付けさせたり、ふしづくりの活動を通して、自己のイメージに合った旋律をつくることができる喜びや面白さを味わわせたりすることが大切である。

そこで、本題材の展開に当たっては、音高と五線譜上の音符の位置の結び付きを捉えながら、思いや意図をもって階名唱やふしづくりをさせるために、旋律の中でも特に音高に着目できるような課題設定を行う。

具体的には、まず、「ドレミあそび」を取り上げる。ここでは、さまざまな曲で階名唱やドレミ体操をしたり、拡大五線譜の上で階名唱をしながらその音符の位置に体を移動させたりする。そこで、音高と五線譜上の音符の位置とを結び付けながら体を動かす喜びや楽しさを味わえるようにする。

次に、「ドレミでうたおう」を取り上げる。この楽曲は、ドやソ等から始まる上行、下行の順次進行で作られた楽曲で、後半部分が音程と歌詞の階名が一致しているため、階名視唱の導入や、音高を感じ取りながら楽器で演奏するのに適している。そこで、ここでは、音高と五線譜上の位置の結び付きを感じながら歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする楽しさを味わえるようにする。

最後に、「海風きって」を取り上げる。この楽曲は、軽快ではずむような前半の旋律と、2分音符を用いて落ち着いた感じの後半の旋律で構成されており、海の様子を想像しやすい教材である。また、最後の2小節では、ド～ソの五音から音を選ぶことができ、簡単なふしづくりをするのに適している。そこで、ここでは、自己のイメージに合うように音の高さをさまざまに試しながら旋律をつくりだす喜びや面白さを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取りながら、心を合わせて表現したり楽曲や演奏の楽しさに気付きながら鑑賞したりすることへの意欲を高め、共に表現する楽しさを感じながら音楽と関わっていこうとする態度を養うことができる。

(3) **子どもの実態** (調査対象 3 年ろ組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名)

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	ドレミで歌うことは楽しいですか。
	はい(31) いいえ(4)
②	その理由を教えてください。(複数回答)
	【「はい」の理由】 ・歌えると気持ちがいいから (14) ・わくわくするから (7) ・ふしを覚えやすいから (5) ・体も一緒に動かすと楽しいから (3) ・覚えて速く歌うと面白いから。(2) ・みんなで歌うと楽しいから (2) ・鍵盤を弾いている気持ちになるから (1) ・正しい音で歌えるから (1) ・楽器でも表現できるから (1) 【「いいえ」の理由】 ・上手に歌えないから (2) ・歌えても楽器で弾けるようにはならないから (1) ・ピアノで弾いた方がふしを覚えやすいから (1)
③	ドレミで歌うときに、どんなことに気をつけて歌いますか。(複数回答)
	・階名を間違えないようにする (10) ・リズムに気を付ける (5) ・きれいな声で歌う (4) ・口を大きく開けて歌う (3) ・音の高さに気を付ける (2) ・友達と声を合わせる (2) ・楽しい気持ちで歌う (2) ・体の動きと合わせる (1) ・ピアノで弾くイメージで歌う (1) ・強弱に気を付ける (1) ・遅れないように歌う (1) ・作曲した人の気持ちを考える (1) ・分からない (1)
④	「かえるのがっしょう(ハ長調)」を正しい音程で、階名で歌いましょう。
	・拍にのって正しい音程で階名唱ができる (31) ・拍にのっているが、正しい音程、階名で歌えない (4)
⑤	次の階名を書きましょう。(ソ・ミ・ラ・ファ・ド・レ)
	・全て正答 (21) ・半数程度正答 (8) ・全くわからない (6)

①②から、歌うことの楽しさを多くの子どもが感じている。その要因として、ドレミで歌うことから得られる心理的な満足感が多く挙げられた。一方「楽しくない」と答えた子どもは、上手に歌えないことや、階名で歌えても楽器で演奏できるようにならなかったことを理由として挙げている。これは、**階名と音高が結び付いていないこと**や、階名を楽器で表現することができないことが要因であると考えられる。

③から、階名で歌う際に、音の高さと階名を結びつけて考えている子どもが少なく、正しい階名を発声に気を付けながら歌おうと考えている子どもが多いことがわかる。これは、旋律を歌う際に音程を捉えやすくなるという階名唱のよさを、これまでの学習の中で実感として得られていないことが要因であると考えられる。

④から、ほとんどの子どもが正しい音程で階名唱ができるが、4名の子どもが正しい音程、階名で歌うことができなかった。これは、歌う際に、**音高と階名が結びついていないこと**が要因であると考えられる。

⑤から、半数以上の子どもが五線譜に関する知識があることが分かるが、一方で6名の子どもが五線譜に全く馴染みがないことがわかる。これは、日常生活で五線譜上の音符に触れる機会が少ないことが要因として考えられる。

(4) **指導上の留意点**

以上のようなことをふまえて、指導にあたっては次のようなことに留意したい。

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、**五線譜の仕組みや階名唱への関心をもたせるために、旋律に着目できるような課題設定をし、ドレミ体操をしながら階名唱をする活動や、拡大五線譜の上で動きながら階名唱をする活動を取り入れる。**

イ 課題追求Ⅱの過程では、音高と五線譜上の音符の位置の結びつきを感じながら歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりできるようにするために、**拡大五線譜の上を動きながら階名唱をする活動を設定する。**さらに、階名暗唱をさせたあとに、鍵盤ハーモニカでの演奏に移行させるようにする。

ウ 課題追求Ⅲ・まとめの過程では、自己のイメージと音高を関連付けながらふしづくりをできるようにするために、**イルカや波、船などをイメージしやすい画像を準備し、それぞれのイメージに合った旋律を、音高に着目しながらつくること**ができるワークシートを用いる。

3 目 標

- (1) ・ 曲想と旋律の表れ方との関わりに気付くことができる。
 ・ ハ長調の楽譜を見て階名視唱したり音高を感じ取って表現したりすることができる。
- (2) 表したいイメージと音高を関連付けて、どのように表現するか思いや意図をもつことができる。
- (3) ハ長調の楽譜を視唱・視奏することに関心をもち、自分の表現を振り返りながら、進んで音楽活動に取り組むことができる。

4 指導計画(全7時間)

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	いろいろな曲を階名で歌ってみたいな。	「ドレミあそび」①	ドレミで歌ってあそぼう。 ○ 既習曲を階名唱で歌ったり、ドレミ体操をしたりする。 ○ 五線譜の仕組みについて話し合い、拡大五線譜の上で遊ぶ。	○ 旋律に着目させるために、既習曲の中から「かえるの合唱」などの音高を感じ取りやすい楽曲を取り上げる。 ○ 音高と五線譜上の音符の位置を結びつけて捉えさせるために、拡大五線譜に立たせ、音の高さに合わせて体を移動する活動を設定する。 ○ 音高を捉えやすくなる階名唱のよさを感じ取るために、単音で歌う場合と、階名で歌う場合を比較させる。 ○ 指くぐりや指またぎの奏法のよさに気付かせるために、指くぐりや指またぎをしない場合と、した場合との演奏を比較させる。その際、技能差に応じて、速度を変えながら、演奏させる。 ○ 前後半の感じの違いを考えられるようにするために、リズムに合わせて手拍子をし、比較させる活動を設定する。 ○ 階名と音高の結びつきを感じ取らせるために、ドレミ体操をしながら階名唱をする活動を取り入れる。 ○ 楽器で演奏しやすくなる階名唱のよさに気付かせるために、階名暗唱に取り組ませる。 ○ ふしの音高によってイメージが変化することに気付かせ、ふしづくりの課題意識をもたせるために、2つのふしを比較鑑賞させる。 ○ 自己のイメージを豊かにしながらふしづくりに取り組むことができるように、イルカや波、船などの画像を提示し、どのような音高のふしで表せるか、話し合う場を設定する。 ○ 互いの表現や演奏のよさに気付かせるために、自己のイメージと表現するふしを関連付けて説明させ、つくり上げたふしについての思いや意図を共有した後に、演奏を聴くようにする。
課題追求Ⅰ	階名で歌ったり、ドレミ体操をしたりすると音の高さがよくわかるよ。		ドレミ体操をしたり、楽譜の上で動いたりしながら歌おう。 ○ 範唱を聴き、感じたことをもとに、曲の特徴について話し合う。 ○ ドレミ体操をしたり、拡大五線譜の上で遊んだりしながら歌う。	
課題追求Ⅱ	音が高くなると、楽譜の上の音符の位置も高くなるんだね。	「ドレミで歌おう」②③	ドレミに合うように、けんばんハーモニカで演奏しよう。 ○ 階名暗唱を生かして、鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 指くぐりや指またぎの仕方について知る。	
課題追求Ⅲ	階名に合うように、鍵盤ハーモニカでも演奏できるようになりたいな。		海のようなすがあられるように歌おう。 ○ 範唱を聴いて、感じたことをもとに、曲の特徴を話し合う。 ○ アとイの感じの違いについて話し合い、階名唱をする。	
まとめ	海の様子が登場できて、楽しそうな曲だな。この曲も階名で歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりしたいな。	「海風きつて」④⑤⑥(本時)⑦	けんばんハーモニカでえんそうしてみよう。 ○ 拍を意識しながら、後半部分を鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 前後半で役割を分担し、階名唱をしたり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。	
	階名でしっかり歌えるようになると、鍵盤ハーモニカでも演奏できるようになったよ。		音の高さに気を付けて、海のような、ふしをつくろう。(本時) ○ 海の様子をイメージする。 ○ イメージと音高と関連付けて、階名唱をしたり鍵盤ハーモニカで演奏したりして、ふしづくりをする。	
	音の高さが変わると、イメージできる海の様子が変わるから面白いな。		つくったふしの発表会をしよう。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 ○ 学習のまとめをする。	
	イルカがジャンプをするように、音が高くなるふしをつくってみよう。		・ ドレミで歌うと、ふしの感じがわかるようになるよ。 ・ ドレミで歌うと、楽器も演奏しやすくなるよ。	

5 本 時(6／7)

(1) 目 標

音高に着目し、表したい海の様子と音高とを関連付けながらまとまりを意識したふしをつくる活動を通して、音高によってふしの感じが変化することに関心を持ち、音のつなげ方が生み出す面白さに気付くとともに、つくったふしを、拍を意識しながら鍵盤ハーモニカで演奏することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、自分がイメージする海の様子を、音高に着目しながら音をつなげてふしをつくり、表現していく。そこで、教師がつくった2つのふしを聴かせ、音高の違いによる旋律の感じの違いや、イメージできるものの違いを比較させ、音高に着目できる課題設定をする。さらに、ふしをつくった際に「どうしてそのようなふしにしたのかな」と根拠を問う発問をしたり、イメージを同じくするペアで表現のよいところを認め合う活動を設定したりすることで、音高と表したいイメージとの関連を明確にしていきながら、さらに表現を練り上げていく。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 教師がつくったふしを比較鑑賞する。 音高差が小さいふし ← 比較 → 音高差が大きいふし 音の高さの変化が違うと、海の様子も変わるよ。 2 本時の学習について話し合う。 音の高さに気を付けて、海の様子に合うようなふしをつくろう。	(分) ↑ 10 ↓	○ 旋律（音高）に着目したふしづくりの課題を設定するために、教師がつくったふし（音高の変化が大きいふし、小さいふし）を比較させ、受けるイメージや感じの違いを話合わせる場を設定する。その際、「音楽のどんなところからそう感じたのかな。」と問う。 ○ イルカや船の様子に合わせて音の高低差を選んでいく仕組みに気付かせるために、旋律に合わせて体を動かす活動を取り入れたり、イルカや船の絵を動かしたりする活動を設定する。
課題追求	3 表したい海の様子を設定し、使用する5音をもとに、階名唱をしたり、鍵盤ハーモニカで試しに演奏したりする。 旋律（音高）に着目した伝え合い 【思いや意図】 イルカがかわいくジャンプする様子を表したいから、音の高さを小さく上下させたふしにしよう。 【思いや意図】 イルカがびよんぴよん元気よく跳ねている様子を表したいから、音の高さを2回上下させてみよう。 伝え合い 【さらなる思いや意図】 今度は、2回ジャンプしているように、ふしを2回上下させてつくってみよう。 ↓ 表現の練り上げ 【さらなる思いや意図】 今度は、大きいジャンプと、小さいジャンプをするように、ふしを上下させてつくってみよう。 ↓ 表現の練り上げ	30 ↓	○ イメージを共有しながら思いや意図を伝え合い、さらなる表現への思いや意図を生み出すために、表す海のイメージは「イルカ」「船」「波」の中から選ぶようにする。 ○ 自分が設定したイルカや船などの様子と旋律の音高を関連付けて考えやすくするために、イメージする様子や旋律を書き込めるワークシートを活用し、視覚的に捉えやすくする。その際、表したい様子は、「○○が、△△している様子」のように、具体的に書くようにする。 ○ 音高とイメージとの関連を明確にさせるために、「どうしてそのようなふしにしたのかな。」と発問する。 ○ 自らの考えを広げ、深めるために、表したい様子を同じくするペアで互いの表現を伝え合い、表したいイメージと音高との関わりを視点に自他の表現のよいところを認め合う活動を設定する。その際、音高を視点に表現のよいところを教師が価値付け、全体で共有する場を設定する。
まとめ	4 学習のまとめをする。 - 音の高さを変えると、いろいろな海の様子に合うようなふしがつくれたよ。 - 他の海の様子を考えた友達のふしも聴いてみたいな。	5 ↓	○ 次時への音楽活動への意欲を高めるために、記述したワークシートや、自他の表現を振り返らせることで音高を中心とした旋律の働きを共有・共感させるとともに、自らの表現が変容した経緯を自覚させる。

